

国保の 運営状況をお知らせします

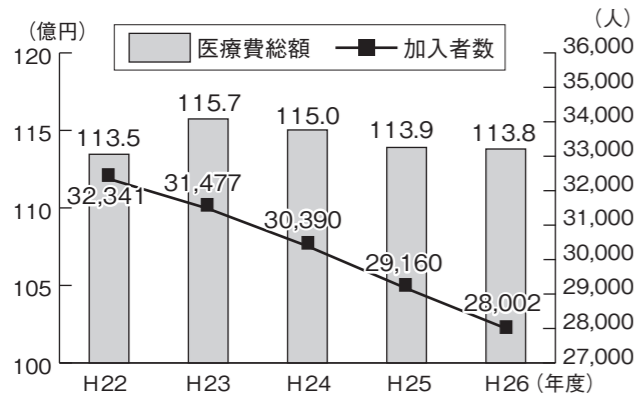
「国保」(国民健康保険)は、病気やけがをしたときに誰もが安心して医療が受けられるように、お互いに助け合うという相互扶助の制度として、加入者の皆さんから納めていただく国保税と、国や県からの補助金などで運営しています。

今号では、市の国保の運営状況などをお知らせします。

ポイント
1

加入者数は年々減少し、医療費総額(本人負担分を含む)も減少傾向です。

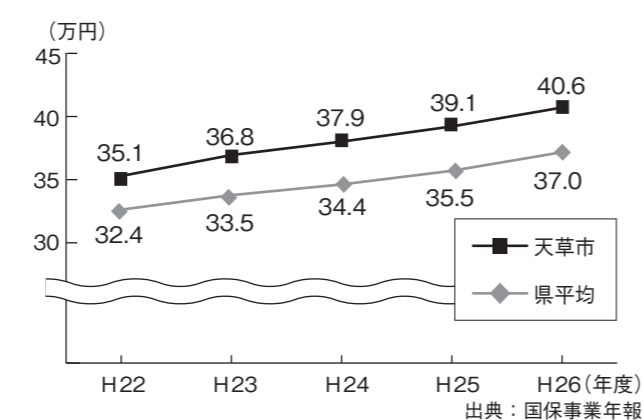
◆加入者数(年間平均)と医療費総額の推移



ポイント
2

1人当たりの医療費が、40万円をこえました。県平均を上回っています。

◆1人当たりの医療費の推移(一般加入者)



医療費総額は減少傾向ですが、1人当たりの医療費は増加しており、厳しい財政運営が続いています。



医療費を抑えるために

かかりつけ医・薬局を持つ

かかりつけ医・薬局は病歴や服薬歴、体質などを把握しているので、治療効果が高まります。



ジェネリック医薬品の使用を検討する

ジェネリック医薬品(後発医薬品)の効果的な使用で、経済的な負担が減り、医療費の削減につながります。



生活習慣病を予防する

生活習慣病を予防することで、医療費の増加を抑えることができます。



【問い合わせ先】本庁・国保年金課 ☎1111

「天草の崎津集落」 世界遺産登録への道

Road to World Heritage



▲崎津集落

ユネスコへの推薦をいったん取り下げ 推薦内容を見直し、平成30年7月の登録を目指す

「長崎の教会群」の世界文化遺産登録に向けたユネスコ(国連教育科学文化機関)への推薦が、いったん取り下げられました。ユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)による中間報告を受けて、文化庁が関係機関と協議し取り下げを決め、2月9日の閣議で了解されたものです。取り下げの経緯や今後についてお知らせします。

世界遺産登録を確実にするための最善策

長崎の教会群は、日本におけるキリスト教の「伝来・繁栄」「禁教と弾圧・潜伏」「復活」を物語る資産として推薦されたものです。これに対し中間報告は、長崎の教会群は世界遺産の価値があると認められるものの、「世界遺産の評価基準を満たしていることの証明が不十分である」と指摘。「禁教の歴史に焦点を当てて、推薦書の内容を見直すべき」というものでした。そのうえで、「速やかに

再推薦がなされ、良い結果が得られるよう助言と支援を行う用意がある」との考えが示されており、イコモスの指導を受けながら推薦書を見直すことが、世界遺産登録を確実にするための最善策として、推薦をいったん取り下げたものです。

「天草の崎津集落」の重要性は今以上に高まる
「天草の崎津集落」は、江戸時代のキリスト教の禁教下において、ひそかに信仰を続けていた証拠が充実しており、長崎の教会群にお

ける「禁教と弾圧・潜伏」を物語る重要な資産です。イコモスは中間報告で、「禁教の歴史に焦点を」としていることから、「天草の崎津集落」の重要性は今以上に高まったととらえることができます。

平成30年7月の登録を目指す

世界文化遺産のユネスコへの推薦は、1カ国につき年1件です。平成29年は、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群(福岡県)が、世界遺産委員会で審議されることがすでに決定済み。「長崎の教会群」は同30年の登録を目指して、再推薦に向けた手続きを進めていきます。

【問い合わせ先】本庁・世界遺産推進室(河浦支所内) ☎761116